

(1) カツオ漁場調査

友利、川崎、金城、喜屋武

沖縄海域におけるカツオ竿釣漁業の効率的操業を図るため、漁場調査を行い当業船に魚群位置等漁況を通報し、併せて、回遊状況、漁場環境を把握するために実施した。

1 調査方法・内容

使用船舶：調査船図南丸 21609トン 1000ps 乗組数 20名

調査期間：昭和51年4月～7月

調査海域：沖縄海域

調査要領：「地方公庁船によるカツオ・マグロ資源調査要領」昭和51年度東北区水産研究所、遠洋水産研究所に準拠した。

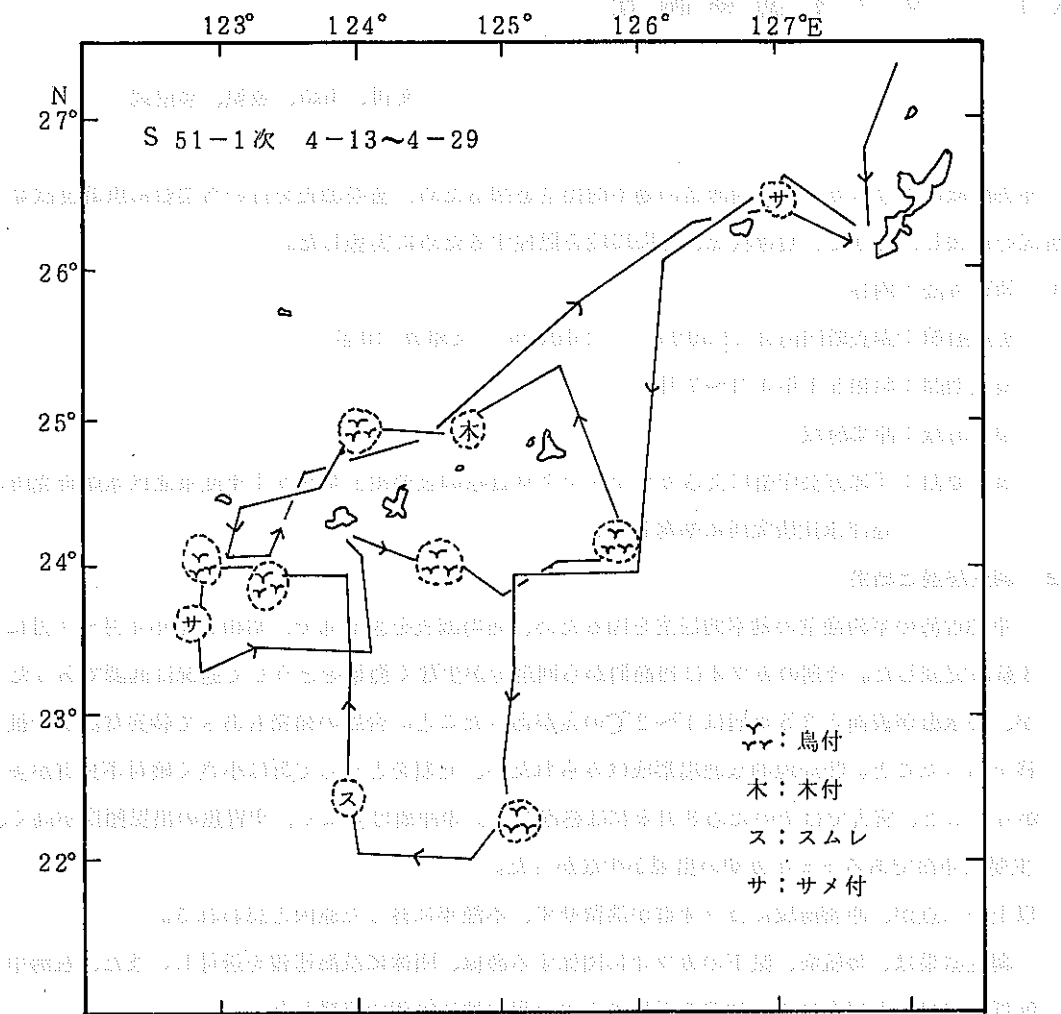
2 調査経過と結果

沖縄近海の竿釣漁業の効率的操業を図るため、漁場調査を図南丸で、昭和51年4月～7月に3航海実施した。今期のカツオは初漁期から回遊量が少なく漁期をとうして漁況は低調であったが、①水温が表面と25m層は1～2℃の差があったこと。台風の頻発もあって特異な海況の推移であったこと。②局地的な漁場形成はみられたが、漁期をとうして群は小さく喰付不良群が多かったこと。宮古ではそのため8月末には終漁した。③沖餌は少なく、空胃魚の出現頻度が高く、主要な沖餌であるトビイカ幼の出現が少なかった。

以上の三点が、沖縄海域にカツオ群が滞留せず、不漁年に終わった原因と思われる。

調査結果は、毎航海、県下のカツオに関係する漁協、団体に航海速報を送付し、また、航海中魚群を発見した場合はその位置を近接のカツオ根拠地に電報で連絡した。

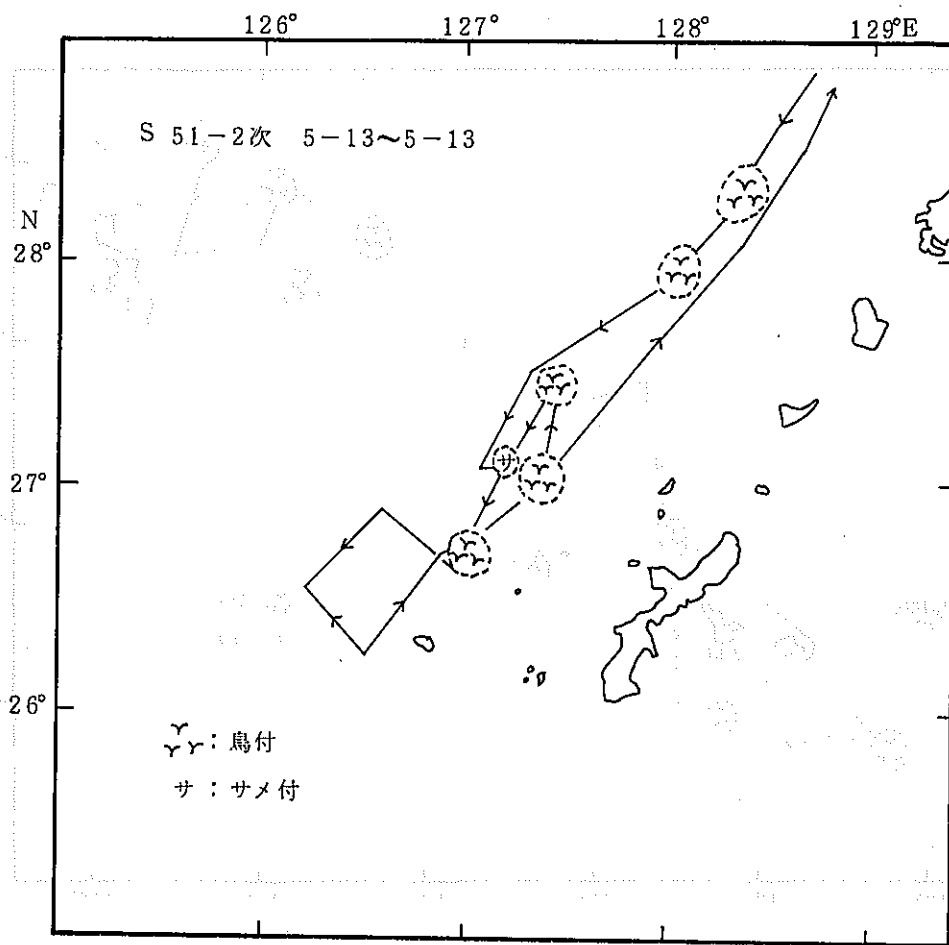
水産庁で規定されたカツオの標識魚を昭和51年5月に種子島近海で放流した所、45日後に伊豆海域で再捕の報告があった。



海況：沖縄西海域は表面水温228~239°C、先島南は25~27°C合を示し昨年同期とほぼ同じであるが、中層（50m~200m層）は1.2~2°C低目になっている。

漁況：粟国~鳥島では魚群は小さくピリカツオ、シビのサメ付群がみられた。宮古南40 哩付近の南東ソネに例年4月下旬に魚群が滞溜するが今年は見られなかった。石垣南120~140 哩付近には小判群がみられたが群は小さかった。西表南西60 哩付近の黒潮縁辺域にはサメ付中判の小群がみられた。また平久保崎北20 哩では小群がみられ喰付不漁であった。

以上のことから今年は例年に比べカツオの回遊は遅れていると云えよう。



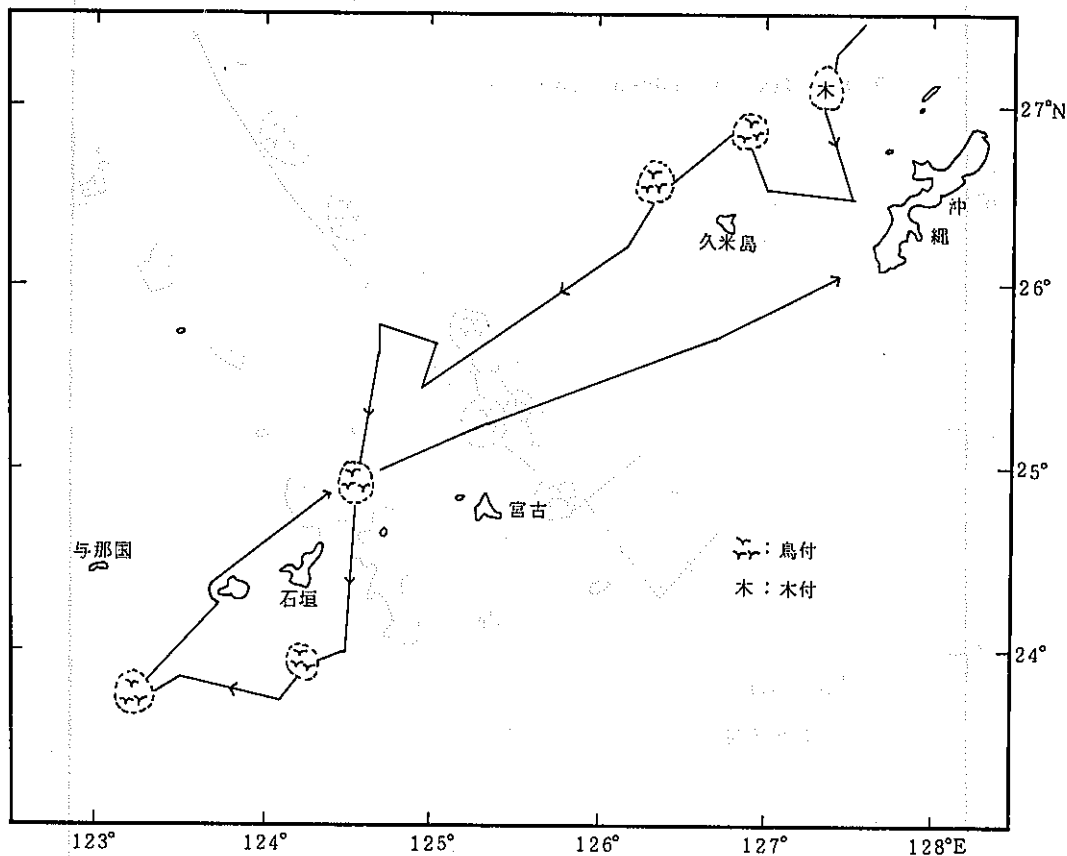
期間：昭和51年5月13日～5月31日

調査船：図南丸 216.09トン 餌場：佐世保、カタクチ 180杯

海況：沖縄西海域の表面水温は25.3～26.5℃を示し、先月より2.5℃の昇温がみられ、昨年同期と比べ0.5℃低目の海域もみられた。

漁況：イオウ鳥島附近は、ビリカツオ主体で群も大きく喰付良好であったが、伊平屋ソネ附近では、サメ付ビリ群もみられたが、全般に群が小さく、喰付不良であった。久米島西海域では、魚群は全くみられなかった。

※ 今航海は、ルソン島東にある台風5号の影響で南下できず沖縄西海域で集中操業をしたが、後半、奄美大島附近にある梅雨前線のため視界が悪く、効率的な操業ができなかった。



期間：昭和51年7月6日～7月20日

調査船：図南丸（21609トン） 餌場：佐世保、カタクチ（180杯）

海況：伊平屋ソネ～久米島にかけて表面水温は28.1℃～28.2℃、宮古北側28.2～28.7℃、八重山南29.0～29.5℃で全般に平年比低目である。また赤尾嶼南約1.5哩、石垣南約3.5哩、波照間南西3.5哩付近に潮目がみられた。

漁況：伊江島北西約3.0哩の大正ソネ付近に流木付カツオ、シビ混群がみられた。粟国島～鳥島にかけては魚群は入っておらず久米島沖はマグロ群がみられた。石垣平久保崎北東2.0～3.0哩では魚群は小さく喰付不良であった。波照間西南西3.5哩に鳥付小判大群がみられソネにつき始めの群と思われる。

今回の調査期間は盛漁期にもかかわらず例年に比べ魚群は少かつ中・大判群が少い。これは表面水温が平年比かなり低目に経過していることも一因と思われる。